

科学技術イノベーション官民投資拡大推進費 ターゲット領域検討委員会 第5回会合(概要)

1. 日 時 平成 29 年 4 月 13 日(木) 15:00~16:00
2. 場 所 中央合同庁舎 8 号館 6 階 623 会議室
3. 出席者 久間 和生 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員  
原山 優子 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員  
上山 隆大 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員  
橋本 和仁 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員  
小谷 元子 総合科学技術・イノベーション会議有識者議員  
江村 克己 日本電気株式会社取締役執行役員常務兼 CTO  
須藤 亮 産業競争力懇談会実行委員長／株式会社東芝技術シニアフェロー  
永野 恵嗣 株式会社スリー・ディー・マトリックス取締役会長  
西尾 章治郎 国立大学法人大阪大学総長  
松尾 清一 国立大学法人名古屋大学総長
4. 配付資料  
資料5-1 研究開発投資ターゲット領域の選定について(案)  
資料5-2 ターゲット領域検討に向けた全体俯瞰図  
資料5-3 ターゲット領域採点整理表  
資料5-4 十倉議員提出資料  
資料5-5 研究開発投資ターゲット領域候補(案)
5. 議題  
(1) ターゲット領域の選定に向けた議論
6. 議事概要  
(1) 冒頭、委員会の開催に当たり、石原宏高 内閣府副大臣及び久間会長より挨拶。  
(2) 事務局より、資料5-1、5-2、5-3、5-4について説明。  
(3) 資料5-1、5-2、5-3、5-4に基づき、ターゲット領域の選定について議論。委員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・ ターゲット領域に係る事務局提案について、産業界からの提案も反映されており、名称も含めて特に異論はない。
  - ・ サイバー空間基盤技術は民間投資、民間ビジネスの創出が期待できる。
  - ・ サイバー空間基盤技術及びフィジカル空間基盤技術は応用範囲が広い。具体的な応用先も考えながら、目的意識をもって取り組むべき。
  - ・ サイバーフィジカルシステムはサイバー・フィジカル、両方の技術があって成り立つ。うまく連携させる仕組みを考慮するべき。
  - ・ バイオ分野は論文・特許のデータから見ても将来的に日本に大きな可能性がある。また、医療分野や介護・くらし分野は政府支出の削減につながる可能性がある。これらについても、平成 31 年度以降、ターゲット領域として適切に取り組むべき。
  - ・ ターゲット領域については、標準化や知財等、研究開発以外の部分についても、検討するべき。
- (4) 議論の終わりに、久間会長より、資料5-5について説明。全委員が内容について了承。
- (5) 鶴保庸介 内閣府特命担当大臣(科学技術政策担当)より閉会挨拶。

以上